

## 子どもの声を聴くことを大切にしたい実践を

この1月、「新しい時代の特別支援教育の在り方に関する有識者会議」の報告が出されました。この会議の中で、特別支援学級という場の意義を重要視していかないのではないかと考えられるような議論もありました。そのような情勢の中、2月の東京教研に向けて、都教組障害児学級部と共にレポート検討を行いました。都教組からのレポートは以下の3本です。

①「みんなで育ててみんなで染めて」  
藍の栽培から始まる染め物」（小学校特別支援学級）

②「絵本ってすごい！ みんなで読むってすごい！〜『ほんとうのことをいっていいの？』」（中学校特別支援学級）

③「あなたの『いいところ』みつければ特別支援教室の指導で大切にしていること」（小学校特別支援教室）

①は子どもたちに『季節を味わう』子になってほしいという思いで取り組んだ実践。子どもたちは、コロナで休校中から藍を育てました。「藍に加えて」読み聞かせ、図工等様々なアプローチから『季節』の眼鏡を通して積み重ねていき、それを「毎年積み重ねていくことで『季節感』が育ち、学級の『文化』になっていくのでは」と語りました。

②は授業者の予想を超えて生徒たちがこの絵本に惹きつけられていく実践。生徒たちは登場人物に心を寄せ「リビィ（絵本の主人公）…、やっと気づき始めたな…」「あー！ー！なんだよ、リビィ！仲直りできたのか！！よかったああ！！」と語りかけます。安心して自分の思いを語ることができる学級で、時には読み取りに迷走しながらも、読みを深めていきます。絵本の力、みんなで読み合うことの力を改めて感じた、と授業者は語りま

した。

③は「学校や家庭で困り、傷ついている子どもたち」を特別支援教室で支える実践。「先生にいっぱい注意される。お母さんにも叱られてばかり」「毎日漢字をいっぱい書いているのに、次の日には忘れちゃう。もつと頑張らなさいって言われるけど、わたしすごく頑張っている。これ以上どう頑張ればいいのか？」という子どもたち。「この子たちに向き合い、相談して、よりよい方法を見つけたい」「あなたの素敵などころをたくさん見つけて、言葉で伝えてあげたい。僕にもいいところがあるな、と思ってもらいたい」。そのために「作戦会議をしよう」「いろんな方法を試して、やりやすい方法を探そう」と子どもたちに語ります。「私たちは子どもたちと話すことを大切にしています。その子にぴったりの方法を一緒に考えるための大切な時間なのです」と。

「先生が自分の言葉をしっかりと聞き取ってくれる」、そんなふう子どもたちが思ってくれる特別支援学級・教室、学校でありたいと思います。

（共同研究者）